

オンライン留学における ICT 活用の現状と課題

三井 桃子
日本大学 法学部

Currents Status and Issues of ICT Utilization In Online Study Abroad

Momoko Mitsui
College of Law, Nihon University

新型コロナウイルスの影響により、海外留学の機会が制限された。それに伴い大学の交換留学や私費での留学も難しくなった。そこで注目されるようになったのが、ICT 活用によるオンライン留学である。移動せずに海外の大学の授業や国際的なプログラムを受講できる。本稿では、対象を日本人の大学生に絞り、オンライン留学の現状とその課題について分析していく。そしてオンライン留学の今後の展望についても考察し論じる。

キーワード: オンライン国際教育, 英語, 日本人大学生, COIL

1. はじめに

近年、新型コロナウイルスの影響により、海外へ渡航することが難しくなった。特に大学生にとって在学中に海外経験を積むことはその後の進路にも影響する大変貴重な経験にも関わらず、制限されることになった。そこで、ICT を活用した国際的な授業・プログラムの提供を受けられる「オンライン留学」が注目されるようになった。

本稿では、日本人の大学生を対象にしたオンライン留学に焦点を当て論じていく。そのうえで、オンライン留学の事例を留学の期間ごとに、数週間から1ヶ月程度の短期留学と、数ヶ月から1年程度の長期留学に分けて紹介する。そして、それぞれのメリットとデメリットについて分析し、最後にコロナ禍以前から実施されているオンラインを活用した国際教育交流に言及することで、オンライン留学がコロナ後どのようにして活用されていくかを考察する。

2. 短期のオンライン留学のメリットとデメリット

まず、数週間から1ヶ月程度の短期留学について検討する。近年急増していた日本人学生の短期留学に対応した取り組みとして、海外の大学が開発したプログラムに、国内学生が参加するものがある。プログラムの内容は、英語を中心とした外国学習や現地の文化を学ぶものが多い。他方、海外の大学と国内の大学が共同でカスタマイズ・プログラムを開発する例も増えている。

立命館大学では、米国の協定校と共同で英語研修やSDGs学習、学生との交流企画を含むプログラムを開発し、2021年2月上旬から1ヶ月間で実施している。⁽¹⁾

文教学院大学では2021年2月に3週間協定校であるCollege of St. Benedict/St. John's University (米)、北京語言大学(中)、Thompson Rivers University (加)、Swinburne University of Technology(豪)大学と協力してオンライン留学プログラムを実施した。大学が実

施したオンライン留学に参加した 21 名の学生へのアンケート調査によると、結果は約 76%の学生から「また参加したい」という意向があった。さらに、プログラムの内容に約 95%の学生が「良かった」「満足した」と回答した。続いてオンライン留学のメリットについてのヒアリングでは、「昨年度までの留学費用と比べても大幅に費用を抑えることができた」「要件を満たす学生に対する支援金もあった」など費用面の利点が挙げられた。また「録画したものを再度視聴できる」「家でリラックスしながら受講できる」という点に関しても好印象を抱いた学生が多く、自分のペースで留学プログラムを遂行できたとみられる。一方で、参加学生の中には「カメラから遠い方や顔があまり見えない学生などもいたため、実際に会ってディスカッションをすると相手の表情が良くわかり、会話のタイミングは掴みやすいと思う」や「現地に行って同じ空気を吸い、そこで生活をして様々な体験をしたい」と現地留学を望む意見もあった。(2)

3. 長期のオンライン留学のメリットとデメリット

次に、数ヶ月から 1 年間程度の長期留学についてみていく。海外協定校における授業をオンラインで履修可能にする「オンライン（バーチャル）交換留学」を行っている大学がある。この事例は、従来交換留学が盛んな大学や海外留学を必須とする学部、学科を有する大学で進められている傾向にある。(1)

早稲田大学は、コロナが猛威を振るい始めた 2020 年からオンラインの交換留学を開始し、同年に既に約 50 名の学生がオンライン交換留学を体験している。大学の HP ではオンライン留学の有用性を参加学生の声を通してアピールしている。ある学生は「オンライン留学でアカデミックな英語力を得ることができた。現地留学ならではある友人とのアクティビティの時間がない分、勉強に費やせる時間が長く、授業を繰り返して聞き直すことができ、英語力は格段に上がった」と回答している。他の学生は「PC の画面越しだとなぜか緊張感が薄らぎ、落ち着いて堂々と発言できた」とオンラインのメリットを述べている。一方、大変だったこととして「当初は奨学金を受けられる予定だったが、

オンライン留学ではそれが適用されず残念だった」という意見が挙げられた。さらに、北米の地域を選んだ学生は、「時差がかなりあるため明け方に起きる必要がある、身体的精神的に苦痛を感じた」と挙げている。(3)

以上のように、長期留学でもオンラインを有用だと評価する声がある。ただ、奨学金制度の整備や、時差を考慮した授業形態の改善が求められることがわかった。

4. コロナ禍以前から行われていたオンラインを利用した国際教育の実践

COIL (Collaborative Online International Learning) (コイル) は、コロナ流行以前から ICT ツールを用いてオンラインで国境を越えてつながり、学生に学びの機会を提供してきた国際協働オンライン学習プログラムである。2000 年代にニューヨーク州立大が開発し、日本では 2014 年から関西大が始めた。文部科学省が行う「大学の世界展開力強化事業」として、2021 年 6 月時点で 30 を超える国内の国公立、私立大学が国から補助金を受け、取り組みを進めている。COIL は、①アイスブレイキング②文化比較検証③協同学習の順に組み込まれた学修活動を、4~8 週間程度で実施するのが基本だが、その定型モデルをさまざまに応用したり拡大したりする動きが世界で起きており今も進化している。(4)

本稿では、朝日新聞(2020 年 10 月 8 日)に掲載された、東京外国語大学とカリフォルニア大学州立ノースリッジ校の学生が参加した 2020 年 9 月に行われた 3 日間の集中講義を紹介する。東京外国語大学も国から補助金を受け COIL 型教育を進めてきた。この講義は「戦後の日米関係」がテーマで、学生たちは「米軍の沖縄統治」「冷戦中の日米関係」「冷戦後の変化」「対テロ戦争」などについて事前に文献を読み、オンラインでレクチャーを聞いて理解を深めた。参加した約 20 名の学生は両大学の学生だが、出身地は日米だけでなく、ロシア、韓国、タイ、モンゴルなど多様である。この日の授業は約 90 分で終了した。意見交換で、学生たちはそれぞれの体験や出身国での出来事を交えて話し、終始活発な意見がなされた。(4) 東京外国語大学の春名展生准教授は、「見ず知らずの海外の学生とオンライン

で英語を協働するには、すぐ反応する瞬発力や、前提を共有していない相手に論理的に伝える能力、話がどう展開しても対応できる柔軟性などが必要。COIL は社会に出て役立つスキルを実践的に鍛える場になっている」と認識する。(4)

COIL 型教育を主導で進める池田佳子関西大学国際部・IIGE 副機構長の発表によると、2020 年度の COIL の学生の満足度調査では「プログラムは目的を達成できていたかどうか」に対し、78.4%が「とてもそう思う」または「そう思う」という回答だった。(5) 満足度が高いことが伺える。

5. オンライン留学の認知度・関心

一部の大学では積極的にオンライン留学が行われているが、実際に学生はオンライン留学についてどのように認識しているのか調査したく、アンケートを行った。本調査は全国の大学生 125 人を対象とし、実施期間は 2021 年 8 月上旬から中旬である。

設問 1 の「オンライン（バーチャル）留学について知っているか」という質問に対し、54.4%が「聞いたことはあるが、あまり詳しくは知らない」と回答した。また、17.6%が「知っている、内容についてもよく知っている」と回答した。一方で、28.0%もの人が「全く知らない、聞いたこともない」と回答した。(図 1)

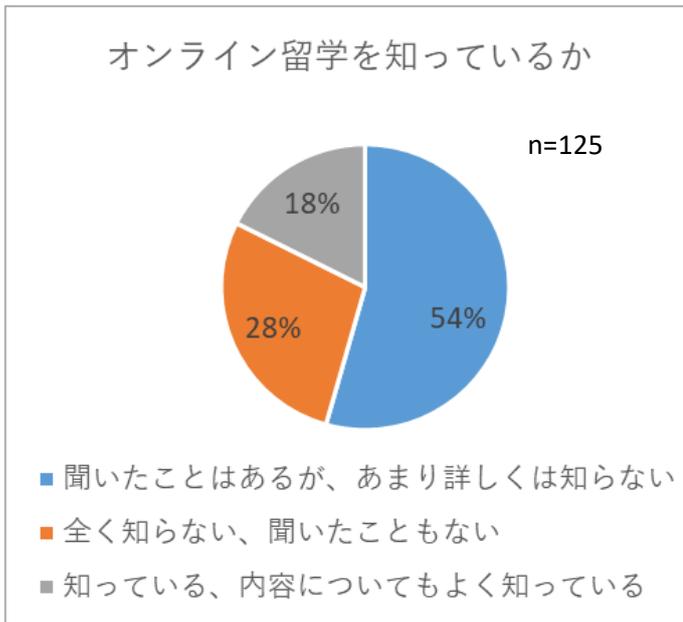


図 1 オンライン留学を知っているか

設問 2 では「オンライン留学のイメージを教えてください」と質問した。まずは上位 3 項目の意見を紹介する。「現地留学より安い」と「移動する手間がかからない」がそれぞれ 56.8%と 57.6%とほぼ同率で、「現地留学より留学の効果が薄い」が 50.4%だった。「よくわからない」は 12%だった。現地留学と同じくらいの効果があると答えた人はたったの 1.6%だった。どちらかというとオンライン留学についてネガティブなイメージを持っている人やそもそもよく理解していない人が一定数いることがわかった。

設問 3 で「オンライン留学をしたことがあるか」と質問したところ、88%が「経験したことない」と回答した。(図 2)「したことがある」と答えた人は全体の 12%で、内 93.3%が 1 週間から 2 ヶ月未満程度の短期を経験していた。

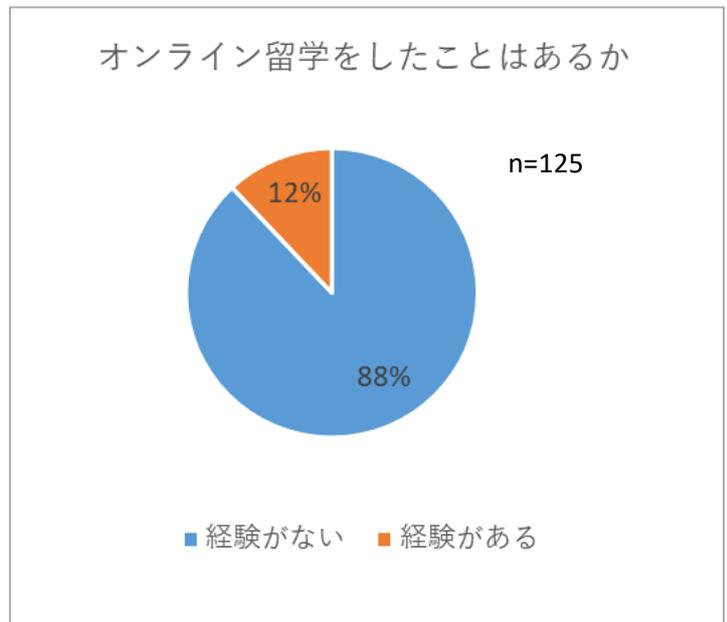


図 2 オンライン留学をしたことはあるか

参加した理由については「どうしても現地留学をしたかったが手段がオンラインしかなかったから」「現地留学より安いから」という回答が多く見受けられた。続いて参加した感想について質問した。上位 3 項目を紹介する。最も多かったのが「現地留学の方がコミュニケーションをとりやすかったと思う」という回答で 60.0%を占めた。次に多かったのが 53.3%を占める「現地留学の方がやる気が出たと思う」という回答だ。同じく 53.3%だったのが「留学以外に就活やアルバイトも同時並行して行うことができた」という回答である。コミュニケーション面での課題がある一方で時間を有効活用できるメリットもあることが考察できる。

設問3で「オンライン留学をしたことがない」と回答した人に、その理由を質問した結果、約半数の45%が「現地留学なら参加したいがオンラインは効果がなさそう」と回答し、33.3%が「そもそも留学に興味がない」「オンライン留学についてそもそもよくわからない」と回答した。また「オンラインということを見ると価格が高いと感じてしまうため」という意見もあった。

さらに、前述した「COIL (Collaborative Online International Learning) 型教育」の認知度についても調査した。結果は、98.4%が「知らない」と回答した。認知度の低さがわかる。2020年度のCOILの学生の満足度調査では、78.4%の学生が「プログラムは目的を達成できた」と回答していた。(5) この結果を踏まえてアンケートで「オンライン留学の実態や効果が明らかになったら参加してみたいか」と質問したところ、「ぜひ参加したいと思う」と「機会があったら参加したい」という回答が合わせて69.6%と大半を占めた。(図3) 一方で、7.2%は「参加したいと思わない」という見解を示した。(図3) このような回答をした人の理由としては「直接会うことの意義をコロナで感じたから」「留学は現地に行くことで、勉学の他に現地の雰囲気や人との会話など得られるものがあるから」とやはり現地留学にしかない良さを求める人が多数いる。また「オンラインでコミュニケーションをとることが苦手だから」「実際にオンライン留学を経験したが集中力が持たなかったから」という回答も見受けられた。

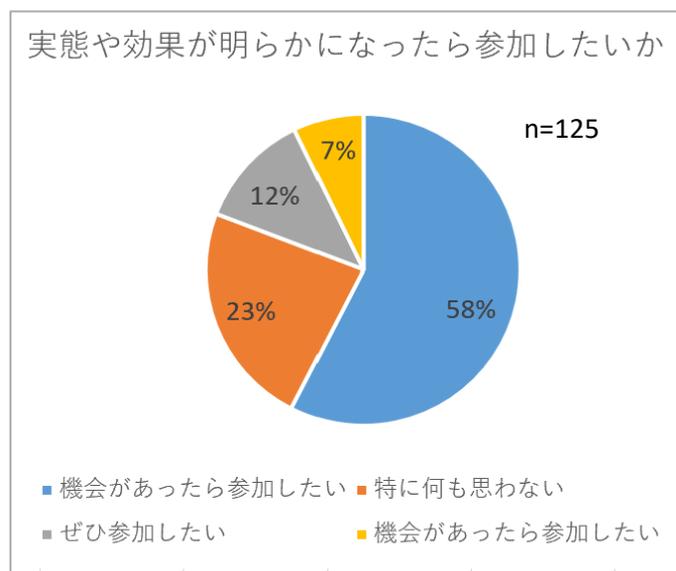


図3 実態や効果が明らかになったら参加したいか

6. オンライン留学の現状と課題と可能性

本稿ではオンライン留学のメリットとデメリットを短期留学と長期留学の実例を通して見てきた。本稿で紹介した実例からはメリットデメリットに期間は関係なかった。

オンライン留学のメリットは、まず、現地に行くより価格が安いこと、金銭面でのハードルが低いことだ。経済的な理由で留学を諦めていた学生が挑戦できる可能性が大いにある。さらに渡航となると精神的負担が大きい、自宅から海外の文化に触れることができるため、戻込みしていた学生が挑戦するきっかけにもなる。(4) 加えて、時間と場所の融通が利くため、就活やアルバイトなどと両立できることが調査からも明らかになっている。

デメリットは、オンライン留学の経験者の感想からわかるように、現状ICTを介したコミュニケーションには限界があり、モチベーションの面でも学生が苦慮していることである。コミュニケーション面での課題は、あらかじめ討論時間を短くし、ライティングの比重を多くすることでアウトプット量を調節するなど改善の余地があると考えられる。モチベーションについては、サークルのようなオンラインアクティビティの充実や、オンライン留学に詳しい日本人カウンセラーに常時連絡を取れるシステムの構築などで課題は解決に向かうと推察する。

オンライン留学の課題は、デメリットの克服と、アンケート調査を通して明らかになった、オンライン留学の認知度の低さの改善だ。コロナ禍でも国際交流をしたいと強く思う学生は少なくない。東京外国語大学の2020年9月のCOIL型プロジェクトには、前年の3倍近くの学生が応募している。(4) 学生の期待に応えるにはオンライン留学を積極的に実施し、参加者の声や効果をHP上などで公開することが求められる。そして、学生への満足度調査を毎回行うことで質の高いオンライン留学が行われるようになると推察する。

7. おわりに

ここまでオンライン留学のメリットやデメリットについて見てきたが、オンラインと現地留学のどちらが

優れているかは論点ではない。朝日新聞 EduA(2020年10月8日)の中で、関西大学の池田佳子教授は「仮想留学、という点ばかり強調され、留学の代替というイメージが広がらないか心配。オンラインの良さを生かしリアルな留学とどうブレンドするか、その配分は大学次第だ」と話している。(4) オンラインのメリットを伸ばし、デメリットの改善を進めたうえで、アフターコロナに向けて現地留学とどう連携していくのか実践や研究が行なわれることが期待される。そのうえで、海外との比較が欠かせない。日本の大学は、ICTを活用した遠隔教育の面で英米や豪州に比べ大きく遅れをとっている。(1) 本稿では日本人の大学生に焦点を当て論じたが、海外の大学では学生向けにどのようなICT国際教育を行い課題をどのように克服しようとしているのか、今後研究する所存である。

参 考 文 献

- (1) 新見有紀子, 星野晶成, 太田浩: ポストコロナに向けた国際教育交流 ―情報通信技術 (ICT) を活用した新たな教育実践より― ウェブマガジン『留学交流』2021年3月号 vol.120 掲載 (参照: 2021年6月23日)
<https://www.jasso.go.jp/ryugaku/index.html>
- (2) 文教学院大学: News Release(2021年6月9日)<https://www.u-bunkyo.ac.jp/news/page/b4474fa231f83c7f5f218ad31c14dd79b939f3bf.pdf>(参照: 2021年7月30日)
- (3) 早稲田ウィークリー: “オンライン” 留学白書 コロナ渦でもあきらめない! 海外大学での学び
<https://www.waseda.jp/inst/weekly/feature/2021/05/31/87072/> (参照: 2021年7月30日)
- (4) 朝日新聞 EduA: “コロナ禍で注目 オンラインで海外とつなぐ教育「COIL」とは” (2020年10月8日掲載)
(参照: 2021年7月25日)
- (5) 関西大学国際部・IIGE 副機構長 池田佳子; “コロナ状況下でのオンライン協働学習「COIL」の展開” (2021年6月25日開催, 第35回大学等におけるオンライン教育とデジタル改革に関するサイバーシンポジウム)
https://www.nii.ac.jp/event/upload/20210625-08_Iked a.pdf (参照: 2021年7月25日)